

根深ネギのカルテック栽培

(10アール当り)

時期	方法	資材
育苗	苗床の準備 (播種・仮植までに20日以上の間隔をおく)	苗床1アールあたり ラクトバチルス 100g 堆厩肥 200kg 畑のカルシウム 10kg ※堆厩肥にチツが足りない場合は硫安 10kgを施用します。
	散水時 (葉面散布・灌水)	濃縮酵素液 (500倍) … 根を強く動かし、生長を促進 カルテックCa液状 (500倍) … 茎葉を厚く充実させ、健全な体質を作る アミノ酸液 (500倍) … 肥切れの時に ※本葉3枚の頃、酵素500倍液を葉上からたっぷりかけて、根の張りを強くします。 ※本葉4～5枚の頃、生育状態を見て、アミノ酸液500倍液を散布します。(または硫安2kgを施用) ※仮植後、酵素500倍散布で根を張らせませす。 ※仮植1週間後、アミノ酸液500倍液を散布します。(または硫安2kgを施用) ※苗が細く、伸びすぎるようなら適宜、カルテックCa液500倍を散布して、親指ほど太い苗にします。 ※苗の根が弱い場合には、酵素500倍液を使って根を張らせ、植いたみなく活着させます。(苗へ散布、または定植後灌水)
本畑の地力作り	なるべく早い時期に投入し、なるべく深く耕耘します (定植までに20日以上の間隔をおく)	ラクトバチルス 600g … 通気・保水・保肥性がよく、深層まで肥沃な土に。 堆厩肥 2トン～ (なるべく多く) ※前作の茎葉もなるべくスキ込み。 硫安 100kg (N成分:21kg) 畑のカルシウム 60kg ※ケイフンを500kg 前後投入する場合は硫安を80kgとして下さい。 ※微生物によって地力化し、定植時には土壌EC:0.2以下と抑えられます。 ※カリ成分12kg程度は吸収しますが、むしろ堆厩肥によるカリ過剰に注意。 ※チツ多肥になるので 土壌の酸性化に注意。もし土壌pHが極端に酸性(pH5.5以下)なら、地力作りにも 畑のカルシウムを増量します。
追肥	定植前後	苗のドブ漬け・植付け後 灌水 濃縮酵素液 500倍液 … 初期の根張り促進、病害軽減 原則として、初期には肥料を効き過ぎにしないこと。 ※チツを切らせて、根を張らせることが大事です。
	定植後45日頃	ウネ上に散布 硫安 30kg + 畑のカルシウム 30kg ※特に分ケツ・生長を早く進めたい場合は、硫安60kgの追肥とする。 (又は硫安の変わりに乾燥ケイフン500kg 前後) ※この間はネギの状態を見て、チツ(硫安)、畑のカルシウム、カルテックCa液状、酵素で適宜コントロールして下さい。
	最終土寄せ時	ウネ上に散布 硫安 30kg + 畑のカルシウム 30kg ※特に生長・肥大をうながしたい場合は、硫安60kg～80kgとする。 ※またネギの充実と品質向上のために畑のカルシウム30kgを同時に施用すると大変効果的です。(またはカルテックCa液葉面散布)

<症状別対策>

症状	対策
葉先枯れ症状・葉折れ症状	根が弱っているので、酵素500倍の葉面散布か、灌水(半月ごと定期散布が効果的)
葉が軟弱、細い、ペト、キンカク、腐敗病	カルシウム不足なので、カルテックCa液500倍の葉面散布(半月ごと定期散布が効果的)
サビ病、ポトリチス、疫病	まず、酵素500倍葉面散布、次にカルテックCa液500倍葉面散布
土壌病害・線虫・連作障害	生育途中で酵素300倍灌水・葉面散布